

学校教育目標 かかわりの力を育てる 目指す子ども像「自分が置かれている場面に応じた行動ができる人」

【評価】 保護者、教員アンケートによる評価：A：3点 B：2点 C：1点 D：0点 点数の合計で評価 [各質問項目 54満点（保護者30点、教員24点）]
達成度：A 達成できた（8割以上） B ほぼ達成できた（6～7割） C あまり達成できなかった（4～5割） D 達成できなかった（3割以下）

No	項目	重点目標	教職員	点数	保護者	点数	達成度		達成状況（成果：○ 課題：▲ 課題に対する改善策：→）
							項目毎	目標毎	
1	早く登校したくなる 楽しい学校	全般	①教育目標『かかわりの力を育てる』について、授業や学校生活の中で意図的に指導することができる。	21			A	▲ (86.4%)	○児童一人一人の教育的ニーズを把握するために、年度当初に全教員で児童理解研修会を行い、個別の指導計画の作成に生かすことができた。 ○合同授業時の役割分担において、振り返りの時間を活用し、その都度確認できたことで、教員間でお互い協力し合い取り組むことができた。 ○研究推進委員会を中心として、今年度の校内研究の方向性について共通理解を図り、一人1回授業研を実施することができた。 ○一人1授業の授業研究会を計画的に実施できた。事後研究会では観点に沿って意見交換が行われ、互いに学び合う機会になり学校研究の推進につながった。 ○外部講師（石井医師、井上直英先生）を招いて、児童の課題への対応や授業力向上に向けた研修会をもつことができた。 ○初めての居住地校交流を2回実施し、担任間でねらいを確認しながら計画的に進めることができた。 ○本校、山形校との交流計画通りに行うことができた。これまでの積み重ねから、落ち着いて関わったり、積極的にかかわったり、成果が出ている。 ○津山小とのロング昼休みの交流を行った。（2回実施、3学期は3回予定）津山小の担当者と連絡を取り、児童の実態に配慮してもらうことができた。 ○地域の人との花植えを今年度も実施できた。地域の方からも積極的に児童と関わってくれるようになり児童も落ち着いて一緒に活動ができるようになってきた。 ○津山小学校との共用施設については、昼休みにも体育館やグラウンドで積極的に遊ぶことができ、有効に使わせていただいた。 ○栄養士のイラストなどを用いた具体的な説明、日々の掲示物、バイキング給食での給食センターの栄養教諭の協力、児童が自分で盛り付けるための給食センターから用具の手配ができた。 ▲津山小との交流で、参加の難しい児童がいる。→具体的な児童の支援体制を考える。 ▲校外の研修会に参加することが難しい。 →長井校と楯特の公開研に参加した。年間で一人1回できるように年度初めに調整する。 ▲本校で行う行事については、本校で全体計画を提案し分校とのやり取りが行われている状況である。 →全体計画を基にして担当者が天童校の計画を提案することで、職員に必要なこと周知する。
			②子どもたちは、楽しく学校生活を送ることができる。	22	お子さんは、学校に来るのを楽しみにしている。	27	A		
			③学校生活において、児童の運動量、活動量が十分に確保されている。	20	体を動かすことが好きになるような活動が実践されている。	26	A		
		個に応じた授業の充実に努める。	①児童理解研修会をもとに個別の指導計画を作成することにより共通理解を図り活用する。 ②年間指導計画の活用と学習の振り返りを通して授業改善に努める。	19	お子さんに合った指導・支援がなされている。	28	A		
		授業改善に取り組む。	①研究推進委員会を計画的に開く。 ②お互いのよさを認め合い、授業から学ぶという見方で研究会に臨む。	20	天童校の職員から特別支援教育の専門性を感じ取ることができる。	27	A		
		特別支援教育の専門性の向上に努める。	①特別支援教育に関する研修会を企画、実施する。 ②校外の研修会の紹介をする。	19			B		
2	安心してまかせられる 安全な学校	安全な学校生活が送れるように努める。	①「ヒヤリハット」の事案の記録の蓄積と分析を行い、課題や反省点を明確にする。 ②計画的に生活指導や安全指導を行う。	20	お子さんの健康・安全が守られ、学校に安心して任せることができる。	30	A	▲ (91.6%)	○ヒヤリハットについての随時周知し、職員会議で共有することにより未然に防止できた。 ○津山小と事前に打ち合わせをし、共通理解のもと各種の避難訓練を実施できた。 ○年度始めに、安全マニュアルを全職員で読み合わせ確認することができた。 ○学期初めの校舎内・外点検を行い、外の遊具も含めて危険が無いか確認した。また、必要に応じて津山小にも連絡し、安全な教育環境を整えることに努めた。 ○月の初めに安全点検を行うとともに、学校安全計画の月ごとの重点について終礼で説明、確認し、安全に対する意識を高めることができた。 ▲隣の教室の声や音、匂いなどが伝わるので、境の穴をふさぐことはできないか。→検討 ▲歯科検診の結果、永久歯がう歯の児童がいた。 →家庭での歯みがきの啓発（学校保健委員会）、正しい歯みがきの個別指導を行う。
		安全管理の体制を整える。	①共用の施設設備を有効に使用するために津山小との連絡調整を密にし、教育環境を整える。 ②津山小との連携を図り、避難訓練や研修会を実施する。	21	津山小の体育館、グラウンド、ギャラリー、プールを有効に使って活動していることが伝わってくる。	29	A		
		月々の重点項目を立てて取り組む。	①保健体育部の年間計画に沿って、毎月の重点項目を掲示する。 ②目標達成に向けて、全職員で取り組む。	21			A		
3	相談や支援を受けられる 頼りになる学校	相談支援体制の充実を図る。	①必要に応じて関係機関との連携を図る。 ②就学相談、教育相談に丁寧に対応する。	22	学級担任は、お子さんの日頃の学校での様子について、保護者とよく連絡を取り話しあっている。	27	A	▲ (92.9%)	○天童校への訪問を積極的に受け入れ、授業参観や学校紹介とともに、保護者の相談にも丁寧に対応した。（のぞみ学園保護者、アイアイ広場職員、市主任児童委員会等） ○放課後等デイサービス職員との情報交換を積極的に行うことができた。さらに充実を図る。 ○他校の授業研究会の助言者（5件）、市特別支援教育コーディネーター研修会の講師（1件）、5年研講師（1件）地区学研講師（1件）の実績 ○進路研修の一環として、天童校保護者が地域の福祉事業所見学を行った。 ○天童校の保護者向けに必要な情報を記載する目的で、天童校進路だよりを1～2学期に4回発行し家庭に配布することができた。 ○学校紹介リーフレットを作成し、天童市内の小中学校、幼稚園、保育園等に配布することができた。 天童校についての理解と園での指導に関わる要求を直接聞く機会にもなった。 ○地域の文化祭への作品展示、学校の様子のDVD放映、地域だよりの配布等を行った。
		障がいのある子どもの教育相談に丁寧に対応する。	①県や天童市の教育支援に協力する。 ②教育相談の報告書を適切に作成し、報告する。	22			A		
		特別支援巡回相談事業に積極的に対応する。	①教頭が窓口になり、情報を収集する。 ②教務、学部主任と連携し、相談事業に取り組む。	22			A		
		天童校の情報を発信する。	①学校紹介のリーフレットを作成し、関係機関に配布する。 ②学校訪問を積極的に受け入れる。	22	学校は情報を発信したり、アンケート等で保護者を聞きたいりして、理解や協力が得られるよう努めている。	30	A		
4	働きたい子どもを育てる学校	授業づくりのため教材研究に使う時間の確保に努める。	①放課後の会議を精選する。 ②事前に月、週予定を知らせ、見通しをもって取り組むことができるようにする。	18			B	▲ (84.6%)	○週予定については、職員に早めに配布し、翌週の予定を全員で確認することで、見通しをもって校務等に取り組むことができた。 ▲放課後の会議が、勤務時間内に終了できないことがあった。 →話し合う内容のポイントを絞り、メリハリのある協議に心がける。
		課題解決に向けて全職員で取り組む。	①課題についての情報を共有する。 ②各分掌部内での業務の役割分担を明確にし、チームで業務に取り組む。	19	担任だけでなく、職員みんなで指導・支援していることが伝わる。	29	A		

